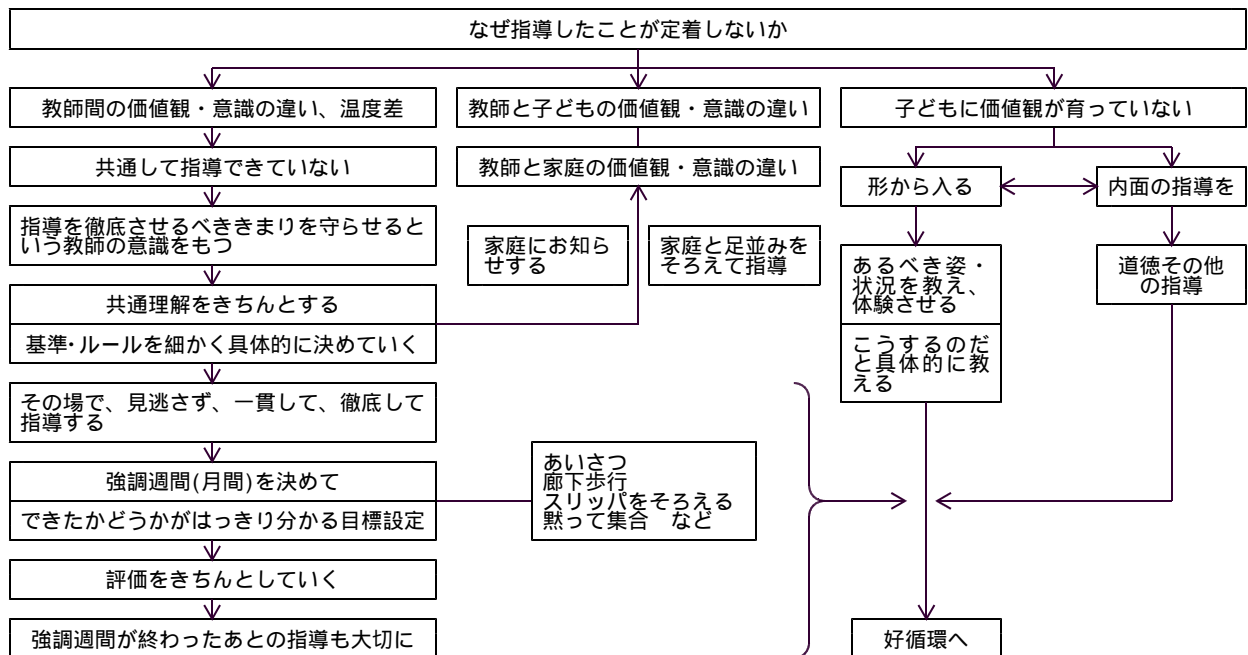


2 生徒指導部

昨年度2月の校内研修において、本校児童の基本的な生活習慣の育成における課題と今後の対応についての話し合いを行った。その時の協議内容をまとめたものが以下の図である。ここでは、話し合われたことに基づいて今年度取り組んできたことのうち、主なものについて紹介する。



(1) 共通理解への工夫

本校では、生徒指導上のきまりについて、「児童の校外生活について」「校内生活のきまり」「服装規定」のプリントを用い、教職員の共通理解を図り、各家庭に理解を求めている。プリントに記述されていない事柄について問題が生じた場合には、話し合った内容を口頭で確認するだけでなく、プリントにして教職員に配布し、共通理解に努めている。

授業の中で「これだけは」というルール
8月27日の事例検討会を受けて
平成19年8月30日

- 授業の最初に構えをつくる
席に着く
姿勢を正す。
静かにする。
机の上は、勉強に関係ある物だけにする。
物の確認
必要ない物はしまわせる。
しまわない児童に対しては、その物を預かる。
帰りに本人に帰す。
- 授業中のルール
「これだけは全員する」という全員ができそうなラインを具体的に決め、全員にやらせる。
できなかった場合は、休憩時間などの時にきちんとやらせる。
勉強に必要な物を出していたときは、しまわせる。
それでもしまわないときは預かり、放課後返す。
席を離れる児童については、席に着かせる。「席に着きなさい」

(2) 強調週間の実施


基本的な生活習慣のうち、特に力を入れて指導したい内容を重点項目としている。今年度は、「あいさつ」「廊下歩行」「黙って集合」とし、2週間程度「強調週間」を設けて、全教職員で指導に当たった。強調週間を設けることによって、指導の仕方が徹底し、全教職員が足並みをそろえて指導できるようになった。また、児童間においても注意し合う姿が見られ、意識の高まりを感じた。

廊下歩行指導強調週間

実施期間：10月22日(月)～11月2日(金)

指導内容：
廊下は 右側を 静かに 歩く。
階段は とばして上ったり、
とび下りたりしない。

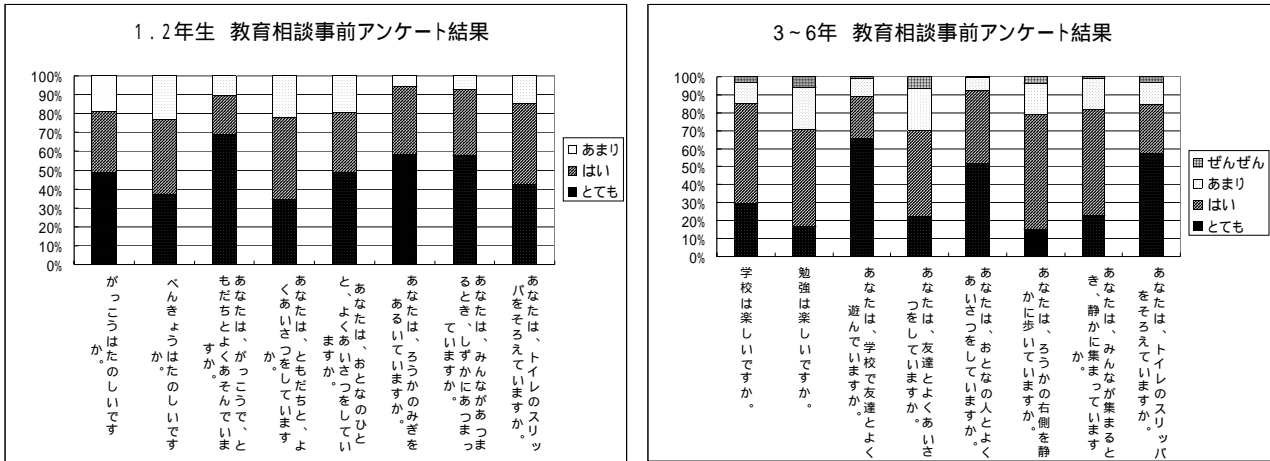
取り組み方：
休憩前には一声かける。
全教職員が守れていない
児童に注意する。

 **注意された児童はやり直し**

(3) 「形から入る」の実践

児童に指導する際には、「何故そうしなければいけないのか」「何故そうしてはいけないのか」といった理由は大切だが、時には「この時にはこうする」という「形から入る」ことも必要である。横断歩道の渡り方の指導では、地区別児童集会の後、運動場に描いた横断歩道で地区ごとに繰り返し練習を行って下校させている。

(4) 児童の意識アンケートの実施



(考察)

- ・数年前のアンケートの結果と比べてみると勉強が楽しいという児童が増えてきているが、まだ低学年で2割、高学年で3割程度の児童が勉強はあまり楽しくないと感じている。楽しく、分かる学習をさらに追求していかなくてはならないと思う。
- ・あいさつや黙って集合、廊下の右側歩行などについては強調週間を設けて重点的に指導した結果、児童の意識も変化しよくできるようになってきている。ただ、あいさつについては大人にはよくできるが子供同士ではあまりしていないという結果がでており今後の課題といえる。
- ・全体的には学校で友だちとよく遊んでいるが、中に全然遊ばないという児童もあり、その児童への配慮に心がけた。

(5) 校内支援体制の充実

サポート会議 (関係教職員による支援会議)

本年度も昨年度と同様に、年間30回程度のサポート会議を開き、生徒指導上課題となる点について早期発見、早期対応に努めた。

クラスサポート体制

特に支援を要するクラスおよび児童に対しては、全校的なサポート体制をとった。時期限定ではあるが、サポート教員1名～2名が計画的に教室に入り、支援に努めた。

事例検討会

特に全校体制や支援が必要な事例について、全教職員による年間2回の事例検討会を開催し、現状を把握し、対応を協議した。

心の安全点検

5月と2月に各クラスの気になる児童についての報告会を行い、全教職員で児童の状況把握と、指導に役立てることができた。

外部との連携

2週間に1度町の教育相談員に児童の状況を報告し、指導を受けた。また2か月に1回程度、生徒指導支援加配担当教員が由宇中学校に出向き、スクールカウンセラーより助言をいただくことができた。